

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤敏文	3	火	3
◆ 講義題目	ヴェーダ文献のことばと思想「リグヴェーダからブラーフマナへ」				
◆ 到達目標	インド最古の宗教文献群 Veda に見られる当時の「世界理解の学」を正確に把握すべく努める。神々と人間との関係、死後の問題、「輪廻」と「業」の出発点などを確認し、合わせて我々の知識の源泉について批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の『リグヴェーダ』(B.C. 1200頃編集)から「ブラーフマナ」と呼ばれる祭式文献群(B.C. 600頃に懸けて順次成立)までを対象に解説する。原資料の姿を知ってもらえるよう、翻訳例を用意する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インド学、インド哲学・文献学、「南アジア」 2 インダス文明と「インド」 3-4 アーリヤ人とその言語文化の背景、インドヨーロッパ語族 5 リグヴェーダ「天地の歌」解説 6 インドラ讃歌解説 7-8 DevaとAsura、ヴァルウナ讃歌解説 9-10 創造讃歌、プルシャ(「人」)の歌 11 アタルヴァヴェーダ紹介と解説 12 ヤジュルヴェーダ・サンヒターとヴェーダ祭式、ヴェーダ文献群の構成 13 ブラーフマナ文献の祭式解釈学 14-15 ブラーフマナの神話。 				
◇ 成績評価の方法	配布コピーに基づいてレポートを提出してもらい、これによって成績をつける(100%)。詳しくは参考文献一覧とともに授業中に指示する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤敏文	4	火	3
◆ 講義題目	「業と輪廻」理論の成立：ウパニシャッドから仏教へ				
◆ 到達目標	「輪廻」と「業」の理論が確立する過程を確認し、仏教興起の背景を知る。合わせて、我々の知識の源泉について批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ブラーフマナからウパニシャッドの基本思想が確立するまでの展開、さらに、自由思想家、ブッダが出現までの経緯を解説する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 天界での死(再死)、ブラーフマナにおける輪廻思想 2 祭式を巡る思弁から普遍的な思想へ 3 シヤンディリヤの梵(brahman)我(ātman)同一説：ブラーフマナとウパニシャッドとの間 4 死後の道：五火二道説の諸系統とその背景 5-6 ウッターラカ・アールニの「有」の教説 7 ヤージュニャヴァルキヤと神学者たちの論争 8-9 ヤージュニャヴァルキヤのアートマン論 10-12 「六師外道」とジャイナ 13- ブッダの答え。 				
◇ 成績評価の方法	配布資料または指示する書物(原典の訳を中心)に基づいてレポートを提出してもらい、100%これによって評価する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 概 論	2	教授 桜井宗信	3	木	1
<p>◆ 講義題目 インド仏教史概説－その1－</p> <p>◆ 到達目標 釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法</p> <p> 釈尊（紀元前5世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。</p> <p> 講義の主なトピックは次のようである。</p> <p> 1：釈尊の生涯と主な事蹟</p> <p> 2：釈尊の思想</p> <p> 3：初期仏教教団の成立と展開</p> <p> 4：アショーカ王と「法」</p> <p> 5：「説一切有部」を中心とした部派の思想</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [100%] ・ () 出席 [%] ・ () その他 [%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。</p> <p>その他：最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 概 論	2	教授 桜井宗信	4	木	1
<p>◆ 講義題目 インド仏教史概説－その2－</p> <p>◆ 到達目標 インドにおける大乘仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法</p> <p> インド大乘仏教史の概略を理解し、『般若経』を中心とした初期大乘経典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乘仏教思想を代表する二大学派の内容を、両派間で行われた論争や影響関係に留意しながら把握することを目指す。</p> <p> 講義の主なトピックは次のようである。</p> <p> 1：大乘仏教の出現と初期大乘経典の成立</p> <p> 2：ナーガールジュナと初期中観思想</p> <p> 3：中期中観派の思想</p> <p> 4：瑜伽行唯識派の思想とその展開</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [100%] ・ () 出席 [%] ・ () その他 [%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。</p> <p>その他：「インド仏教史概説－その1－の既習者であること」を履修要件とする。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 基 礎 演 習	2	教授	後 藤 敏 文	4	月	5
◆ 講義題目	やさしいサンスクリット語講読					
◆ 到達目標	初等文法で学んだ文法事項を復習しながらやさしいテキストを読み、基礎語彙の習得、造語法、シンタクスの初等事項学習に努める。					
◆ 授業内容・目的・方法	Hitopadeśa「役に立つ教訓」を題材にサンスクリットを学ぶ。文法書はサンスクリット語初級で用いたもの（Gonda か MacDonell）、辞書には MacDonell, Monier-Williams, Cappeller, Böhtlingk または Mylius を用いること。毎回全員に訳してもらい、解説を加える。					
◇ 成績評価の方法	毎回の授業で示される学習成果による。					
◇ 教科書・参考書	インドで出版された廉価版を用意する。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	教授	後 藤 敏 文	5	月	4
◆ 講義題目	ウパニシャッド選					
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス、韻律）に注意しつつ、古インドアーリヤ語（サンスクリット）習得に努める。インド思想史の諸概念の理解にも努める。					
◆ 授業内容・目的・方法	一般に中期韻文ウパニシャッドに分類される『カタ・ウパニシャッド』IV－VI章を講読する。言語は既にヴェーダ語ではなく、中期インドアーリヤ語の影響も浮上する。仏教との関連で注意すべき概念も現れるなど、思想的にも重要である。古インドアーリヤ語史とインド思想史の両観点から精密に検討する。これを終えた場合には、タィティリーヤ・ウパニシャッドに進む。					
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力による。					
◇ 教科書・参考書	諸版を勘案したプリントを用意する。入手可能な限りの諸版、諸研究を参考にする。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	教授 後藤敏文	6	月	4
◆ 講義題目	仏教文学選				
◆ 到達目標	古典サンスクリット（とその逸脱形と）について、文献学的・言語学的訓練を行う。仏教とその背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の文学作品の一つといわれる Āśvaghoṣa 作 Buddhacarita を読む。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	Johnston 版を基礎にする。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	非常勤講師 岩崎良行	集中 (5)		
◆ 講義題目	インド文法学入門				
◆ 到達目標	史上最古にして最も体系的とされるパーニニ文法（B.C 5 - 4 C頃成立）の構造と方法を理解する。インドにおけるサンスクリット語の伝統的な学習方法に則り、すなわち実用的見地から、文法規則の基本的な運用を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>『パーニニストラ』(Aṣṭādhyāyī) [約4000規則] の入門書として定評あるヴァラダラージャ (A.D.17C) 著『簡約・定説の月光』(Laghusiddhāntakaumudī) [約1200規則] を講読する。適宜『ヴァールッティカ』『マハーバーシャ』『カーシカー註』等の古典的注釈書に論及して文法学の歴史的展開に留意しつつも、もっぱらインドの伝統に準じて規範的な文法体系としてとらえ、その構造と方法の理解に努める。その上で、文法規則の実践的な運用に慣れることを目的とする。</p> <p>1. 文法用語 (samjñā) を講読した後は通読にこだわらず、適宜必要なメタ規則 (paribhāṣā)、通則・排除規則 (utsarga - apavāda)、主題提示規則 (adhikāra) 等を解説しつつ、2. 連声 (sandhi)、3. 名詞曲用 (sUP-anta)、4. 動詞活用 (tiN-anta)、5. 複合語 (samāsa) の各々について数例の語形成 (prakriyā) を実習する。予習は不要だが暗記を中心とする復習には力を注いで欲しい。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業後にレポートを課す。与えられた単語 (pada) の語形成 (prakriyā) を文法規則を正しく運用しながら図式化して記述できるかを測る。授業参加の意欲も考慮する。				
◇ 教科書・参考書	インドで出版された廉価版を用意する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	5	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなし上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol. 2 (東洋文庫刊), pp. 1 -37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	6	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol. 2 (東洋文庫刊), pp. 1 -37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	非常勤 講師 齋 藤 明	集中		
◆ 講義題目	Bodhicaryāvatāraṇjikā の原典講読				
◆ 到達目標	テキスト (Bodhicaryāvatāraṇjikā、以下BCAPと略) の精読をふまえ、その正確な理解とともに、中観思想史における著者 Prajñākaramati (950-1000頃) の位置づけを再考し、確認することをめざす。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Prajñākaramati (950-1000頃) 作の『入菩提行論注釈』(BCAP) は、後期のインド仏教のみならず、カダム派を中心として、チベット仏教においても多大な影響を残した。</p> <p>この授業では、10を数えるBCAの注釈文献の中で、唯一サンスクリット本が伝承されている本文献を対象とし、その最重要章である第9章の中の二真理(二諦)説、大乘仏説論、自己認識論批判、および<我>批判の箇所を講読する。その上で、当該箇所に見られる著者の思想を分析し、中観思想史における位置づけを再考する。授業は、講読を中心としながら、適宜、講義をはさみながら進めたい。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%] () その他 [%]				
◇ 教科書・参考書	<p>教科書：BCAPは de La Vallée Poussin 校訂本 (Vaidya 本も可) を底本とし、適宜、写本を参照する。注釈の対象となるBCAについては、Minayev 校訂本を随時、使用する。</p> <p>参考書：BCAについては、以下の2書を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金倉圓照『悟りへの道』(サーラ叢書9) 平楽寺書店、1965。 ・K. Crosby and A. Skilton, The Bodhicaryāvatāra : Śāntideva, Oxford University Press, 1996. <p>BCAの新旧両本については、以下の書他を参照。</p> <p>A. Saito, A Study of Akṣayamati (=Śāntideva)'s Bodhisattvacaryāvatāra as Found in the Tibetan Manuscripts from Tun-huang (Research Report of the Grant-in-Aid for Scientific Research (C)), Mie University, 1993.</p>				
その他：「サンスクリット語文法を修得した者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後 藤 敏 文	5	火	5
◆ 講義題目	サンスクリット文選				
◆ 到達目標	基本的文法事項(活用形、派生法、シンタクス)と基礎語彙の習得に努め、比較的速く読む能力を養う。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>カーリダーサ作『シャクンタラーの物語、気づきの場』(Abhijñānaśakuntalam) 第6、7幕を題材として、比較的易しいサンスクリット語の訓練を行う。Monier-Williams 版254頁から戯曲の最後までを予定。同箇所までの後藤訳(コピー)を参照のこと。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業で示される能力による。				
◇ 教科書・参考書	Monier-Williams 版を基礎にする。ScharpéのEd.をも参照のこと。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	6	火	5
◆ 講義題目	ブラーフマナ選				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、基礎知識を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の散文文献と考えられるマイトラーヤニー サンヒターから、I 4（祭主の章）を取り上げる。インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、祭火を巡る思弁を中心に、祭式の意義付けの展開を追う。カータカ・サンヒターなどの対応箇所も必要に応じて点検する。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer を座右に置くこと。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	水	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進めるといふインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 梵文原典：ABHIDHARMAKOSĀBHASYA OF VAṢUBANDHU Chapter 1 Y. Ejima, 山喜房仏書林。 ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 <p>※ 『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	水	3
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要不可欠からざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ ー リ 語	2	教授 桜井宗信	3	水	4
◆ 講義題目	パーリ語初級文法Ⅰ				
◆ 到達目標	パーリ語で著された仏典の読解に必要な基礎的知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>パーリ語仏典テキストの訳読を通して文法の概略を学び、併せてパーリ仏教に関する基礎知識の修得を図ることを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	D. Andersen : A Pāli Reader *参考書等は教室で紹介する。				
その他：サンスクリット語初級文法の既習者であることを履修要件とする。また、最初の授業において参考書等について説明する。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ リ 語	2	教授 桜井宗信	4	水	4
◆ 講義題目	パーリ語初級文法Ⅱ				
◆ 到達目標	パーリ語仏典読解能力の向上と基礎的語彙の定着を図る。				
◆ 授業内容・目的・方法	パーリ語初級文法Ⅰに引き続き原典テキストの訳読を行い、パーリ仏典を研究資料として扱う上で必要な基礎語学力の定着と向上を図ることを目的とする。				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%]・ <input type="checkbox"/> リポート [%]・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度） [30%]				
◇ 教科書・参考書	D. Andersen : A Pāli Reader *参考書等は教室で紹介する。				
その他：パーリ語初級文法Ⅰの既習者であることを履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チ ベ ッ ト 語	2	教授 桜井宗信	3	木	2
◆ 講義題目	古典チベット語初級文法Ⅰ				
◆ 到達目標	(1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、解釈力の養成を計る。				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%]・ <input type="checkbox"/> リポート [%]・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度） [30%]				
◇ 教科書・参考書	藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学研究室に備え付けがある）				
その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チ ベ ッ ト 語	2	教授 桜井宗信	4	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。 「齒応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Tāranātha : 『インド仏教史』 (コピーを配布する)</p> <p>その他 : 「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					